

EXPO'70

世紀の祭典・日本万国博

FIRST WORLD'S FAIR IN ASIA

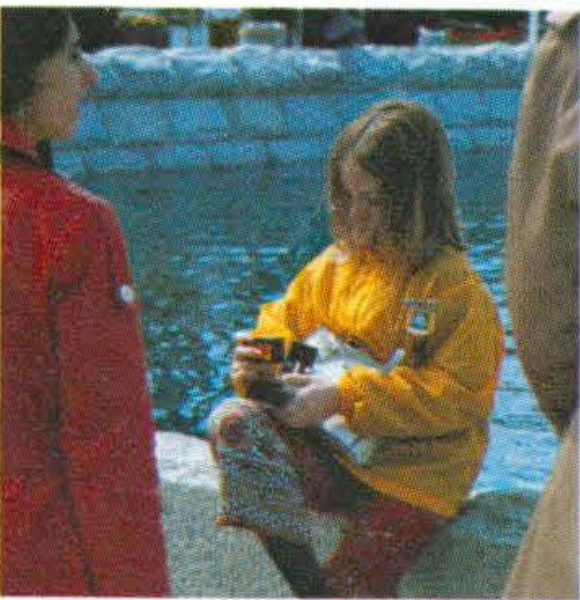
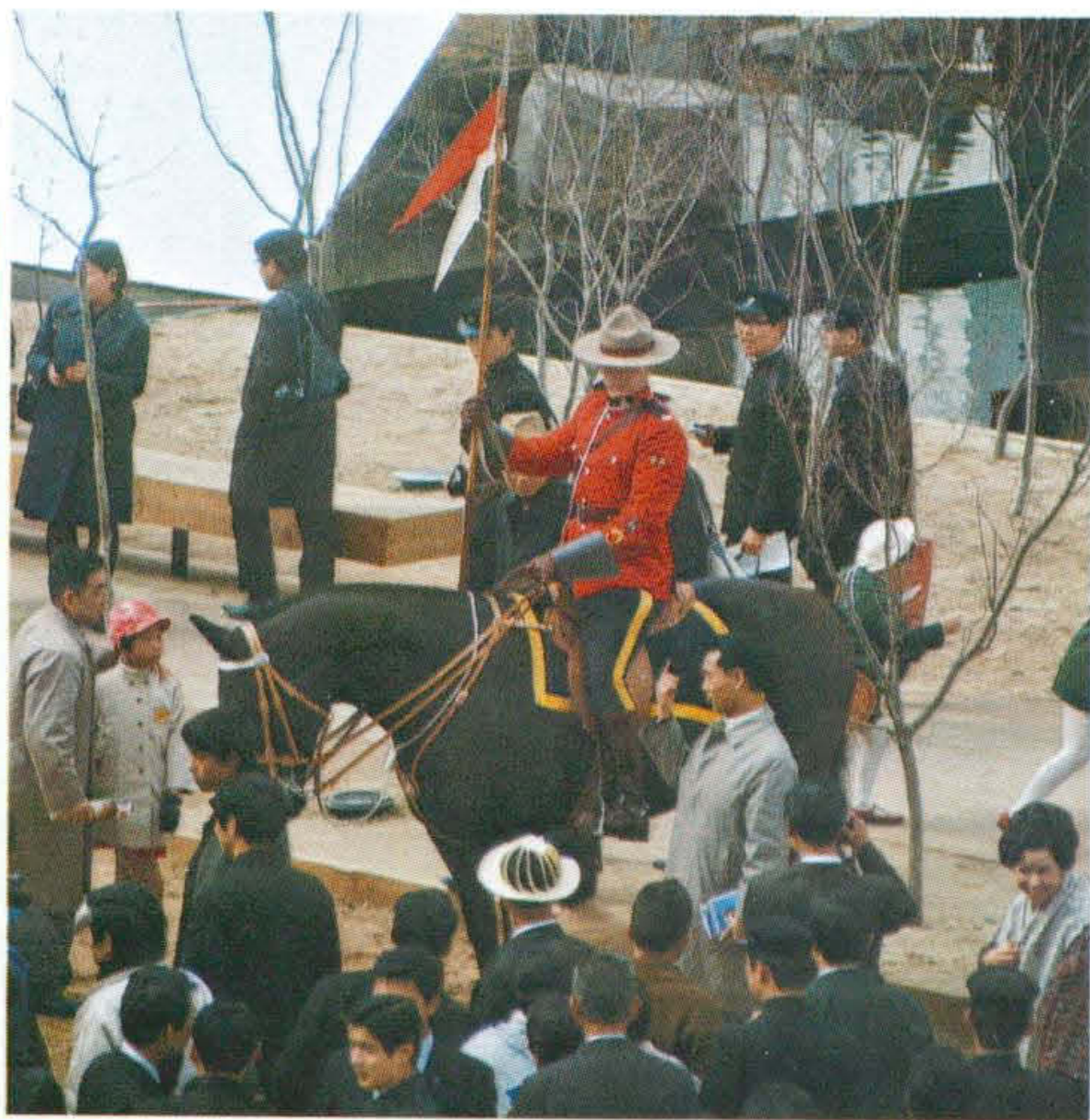
「人類の進歩と調和」をテーマにアジアで初めて開かれた日本万国博覧会。参加国77カ国、その規模も史上最大といわれるこの世紀の祭典は、数多の未来技術によって支えられている。日立もコンピュータを中心としたデータ通信システム、モノレールなどの最新技術をもって協力している。



1. 「太陽の塔」内部 5台の日立エスカレータが大屋根の空中展示場へ通じている
2. EXPO'70のシンボル「太陽の塔」巨大な三つの顔は過去・現在・未来を象徴

1. By means of five escalators, visitors are led onto the Symbol Area
2. Tower of the Sun, symbol of EXPO '70





世界がここに……

FROM AROUND THE WORLD

全世界からやってくる入場者は老若男女、万国博にふさわしく、国籍や装いもさまざま。お祭り広場では連日、賑やかなページェントがくり広げられ、観衆が一つになって楽しいお祭り気分にあひたる。夜ともなれば、イサム・ノグチ氏デザインの噴水が会場の中心を華やかに彩どる。



追求——未知への招待 日立グループ館

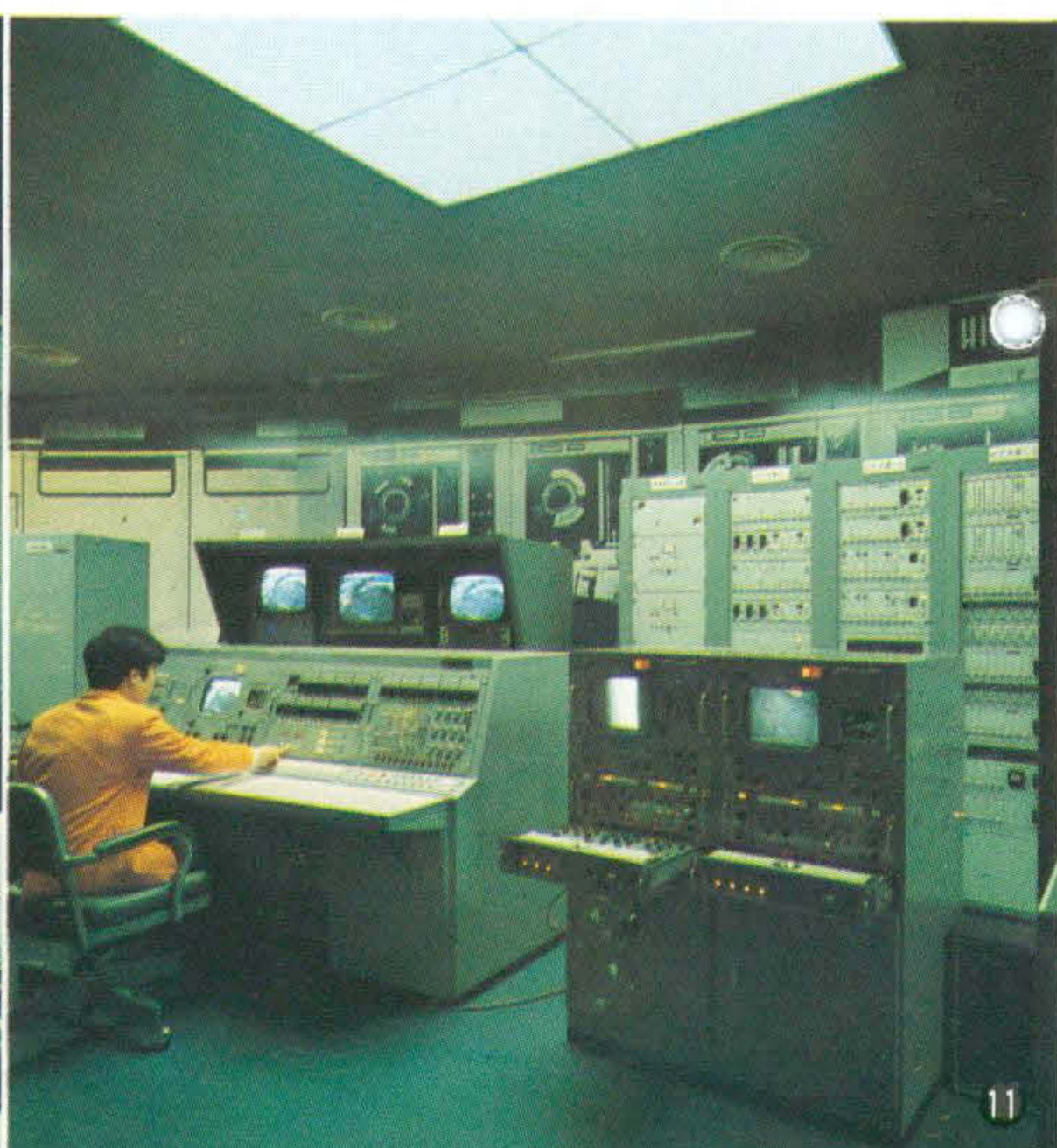
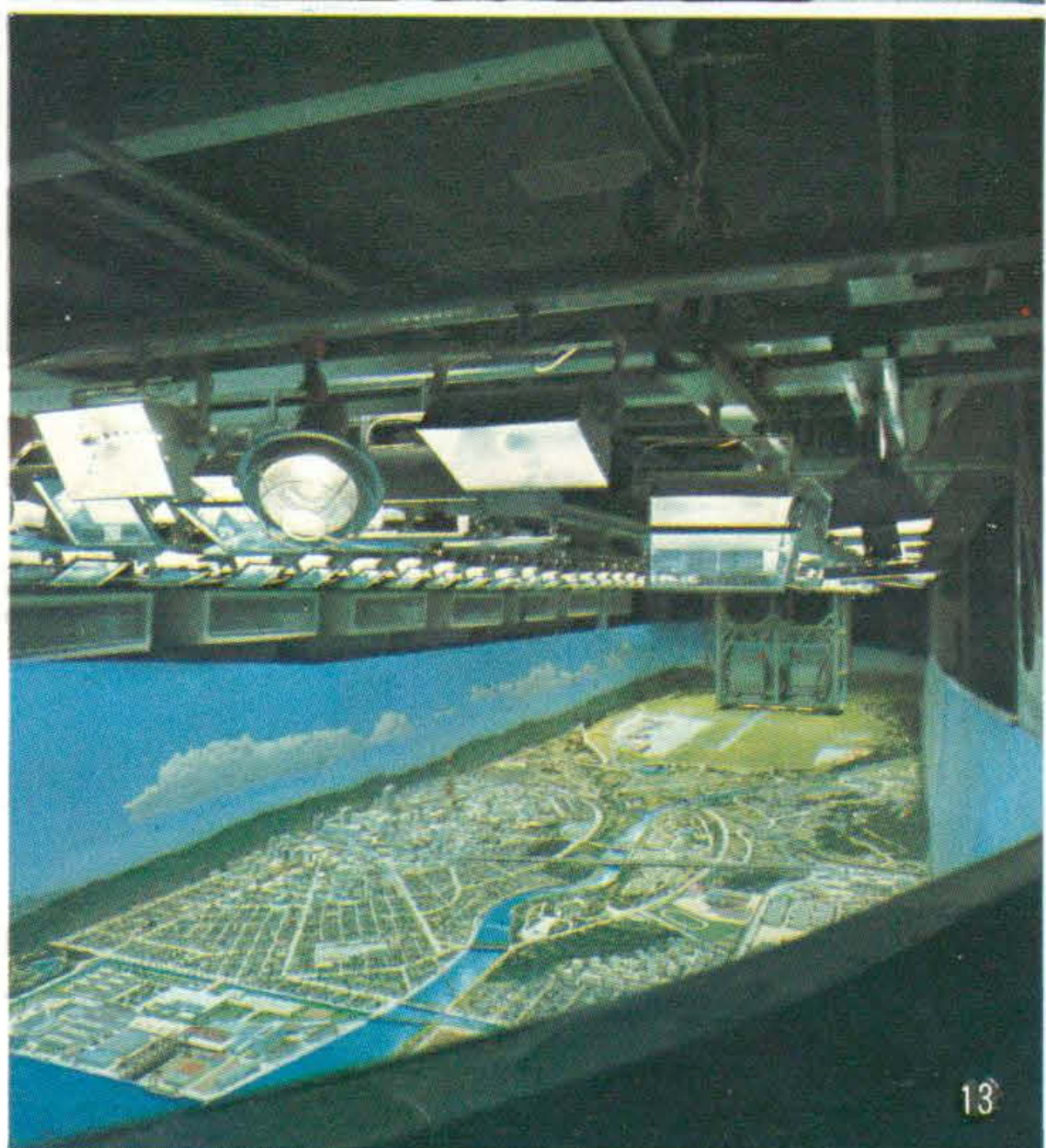
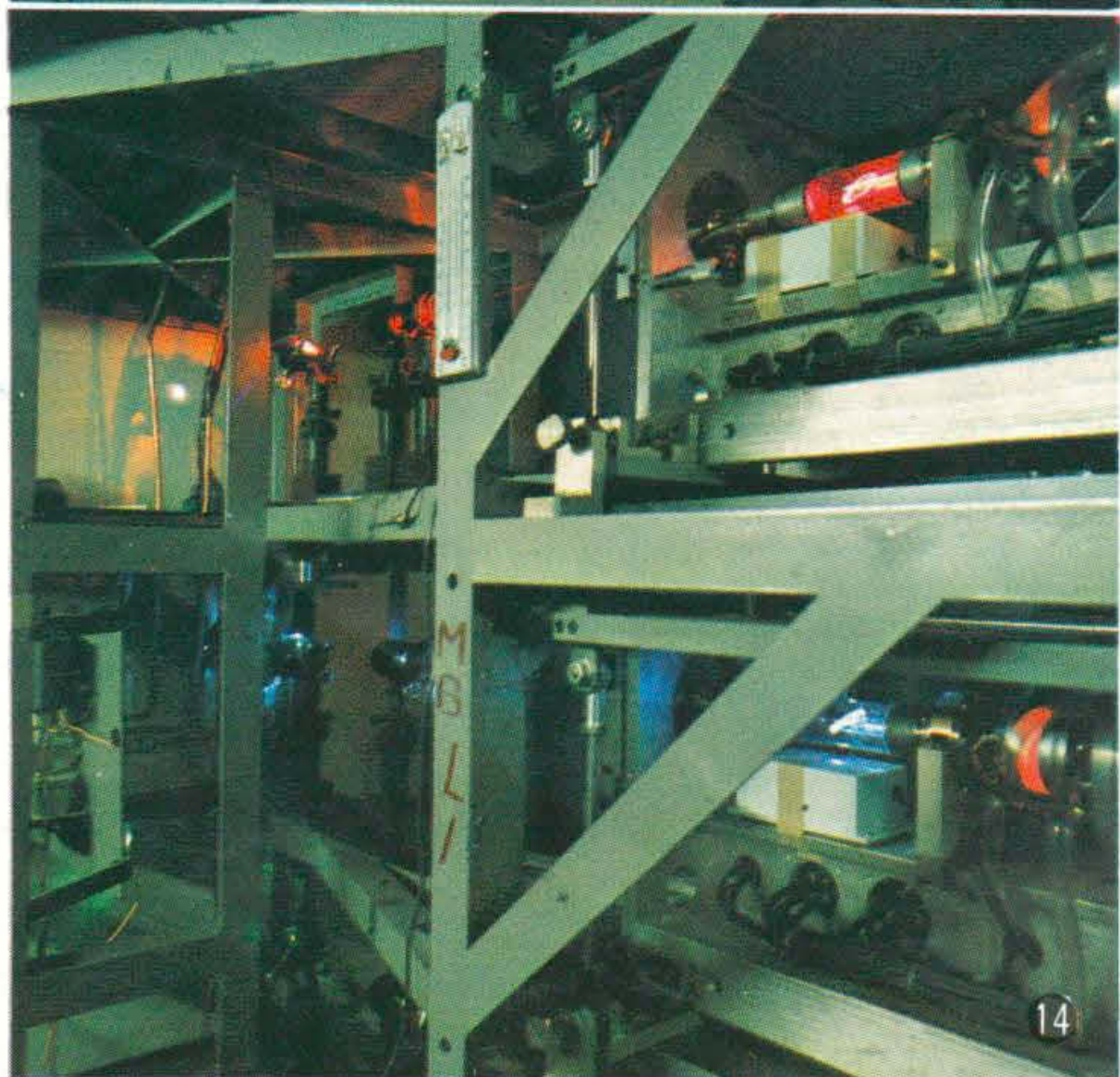
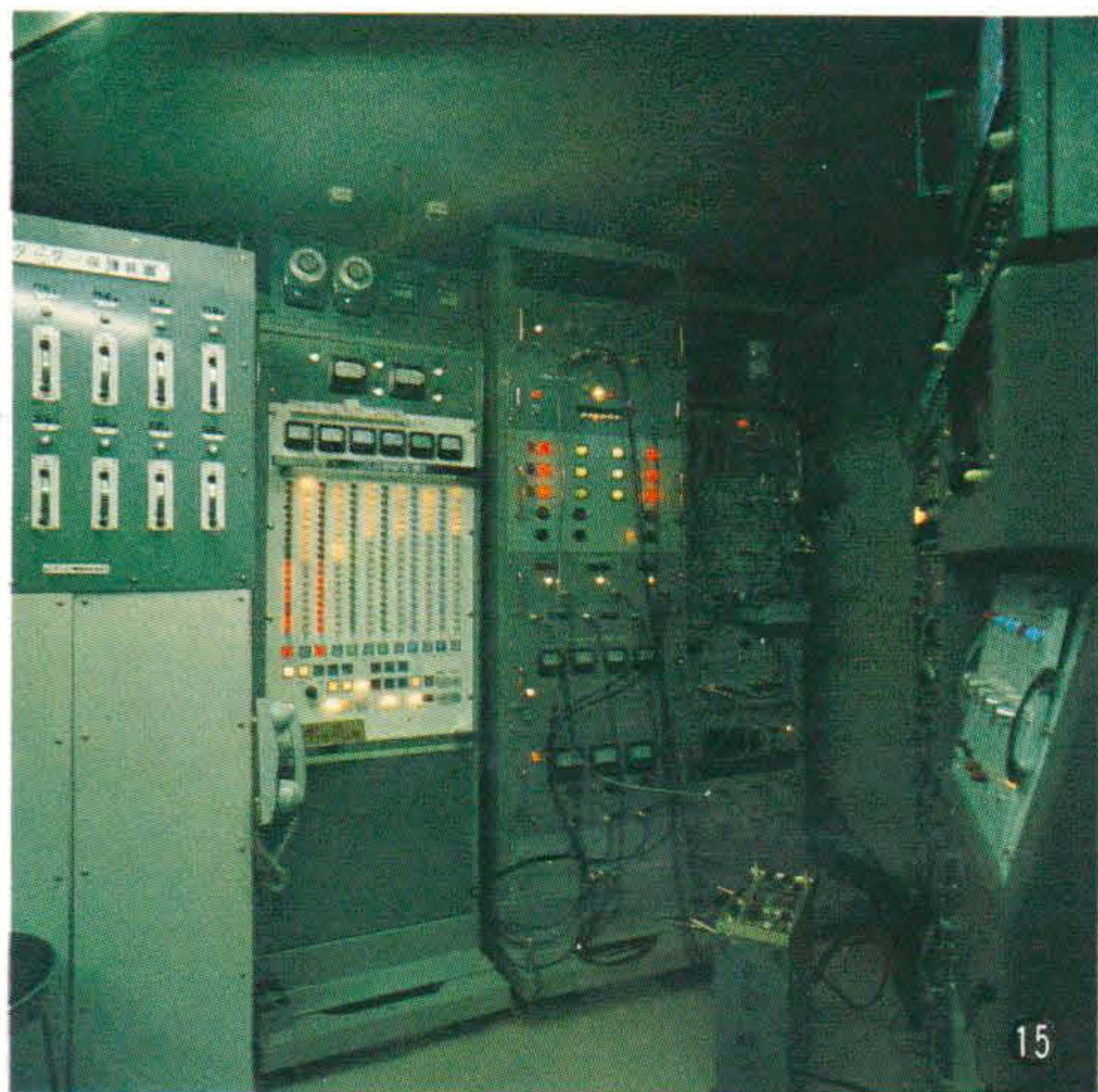
HITACHI GROUP PAVILION: 'INVITATION TO THE UNKNOWN'

会場西方にポツカリ浮かぶ赤い円盤状のパビリオンは日立グループ5社協同の日立グループ館。コンピュータによる空の旅"シミュレート・トラベル"。世界初公開のレーザ・カラーテレビ。260人乗りの

2階建エレベータ、全長40mの空中エスカレータなど、科学技術の粋をきわめたもの。連日7,500人にもものぼる観客を集め大好評の日立グループ館は、現代人の未知への夢を満たしてくれる。



パビリオンの入口でエスカレータに乗る。
 “空の旅”のムードを味わいながら次第に
 上昇、エレベータで外にでるまで“空の旅”
 を満喫する仕組み。レーザ・カラーテレ
 ビはなまのテレビ番組を放映。





1. インフォメーション・コーナーで活躍する日立グループ館のコンパニオン 2. 館内の連絡にテレビ電話が活躍 3. エスカレータでパビリオン内へ 4. 地上の待合所からスカイロビーへと導くエスカレータ 5. スカイロビーから会場が一望のもとに 6. 世界最大の130人乗りエレベータで3階、シミュレート・ホールへ 7. 128のバケット・シートがある円形劇場、シミュレート・ホール 8. 座席数8席の操縦室が回転、画面と向きあう 9. 操縦桿の操作でジェット音とともに離陸、空の旅へ 10. 再び、エレベータで2階に降りる 11. 12. 模擬飛行を演出するコンピュータ室内の各装置 13. 2階スタジオに展示されているシミュレート・トラベルの模型 14. 15. 16. レーザ・カラーテレビ装置となまのテレビ画像がうつし出される超大形スクリーン

1. Hitachi companions
2. TV-telephone for intra-pavilion use
3. Visitors enter the pavilion by escalator ...
4. ... for a trip to Sky Lobby
5. A view of the Expo site
6. To Simulation Hall via elevator
7. 128 people can enjoy the trip at a time
8. Visitors take position in cockpits
9. Ready to take off ...
10. Visitors board elevator ...
- 11, 12. ... to see computer room, control center for simulated air trip
13. ... and model used for take-off and landing
- 14, 15, 16. World's largest laser color TV





万国博の心臓部・データ通信システム

DATA COMMUNICATION SYSTEM

万国博会場内の情報をすばやくキャッチし、コントロールするのが、コンピュータを中心とする日本電信電話公社のデータ通信システム。入場者数、各パビリオンでの待ち時間状況、駐車場の台数ぐあい、迷い子、忘れ物、待ち合わせ、催し物などの情報はすべて端末機器を通じて、コンピュータに送られる。会場だけでは

なく、催し物などの問い合わせについては全国からの電話にも応答する。

日立のコンピュータHITACは、万国博の情報処理の中核、日本電信電話公社のデータ通信システムに欠かせぬ存在。さらに日立のCCTVも会場監視に大活躍。ますます発展する未来の情報化都市の縮図がうかがえよう。

1. データ通信システムの花形、コンピュータ
2. 場内各所の混雑状況をキャッチするCCTV
3. モノレールの各駅に設置されたCCTV
4. 会場内の状況がディスプレイされるオペレーション・コントロール・ルーム

1. Computers, star of data communication system
2. CCTV's check congestion at various EXPO sites
3. CCTV's installed at monorail stations
4. Operation control room ensures smooth management of EXPO



2



3



4

会場の足——モノレールと動く歩道

PUBLIC CONVEYANCES

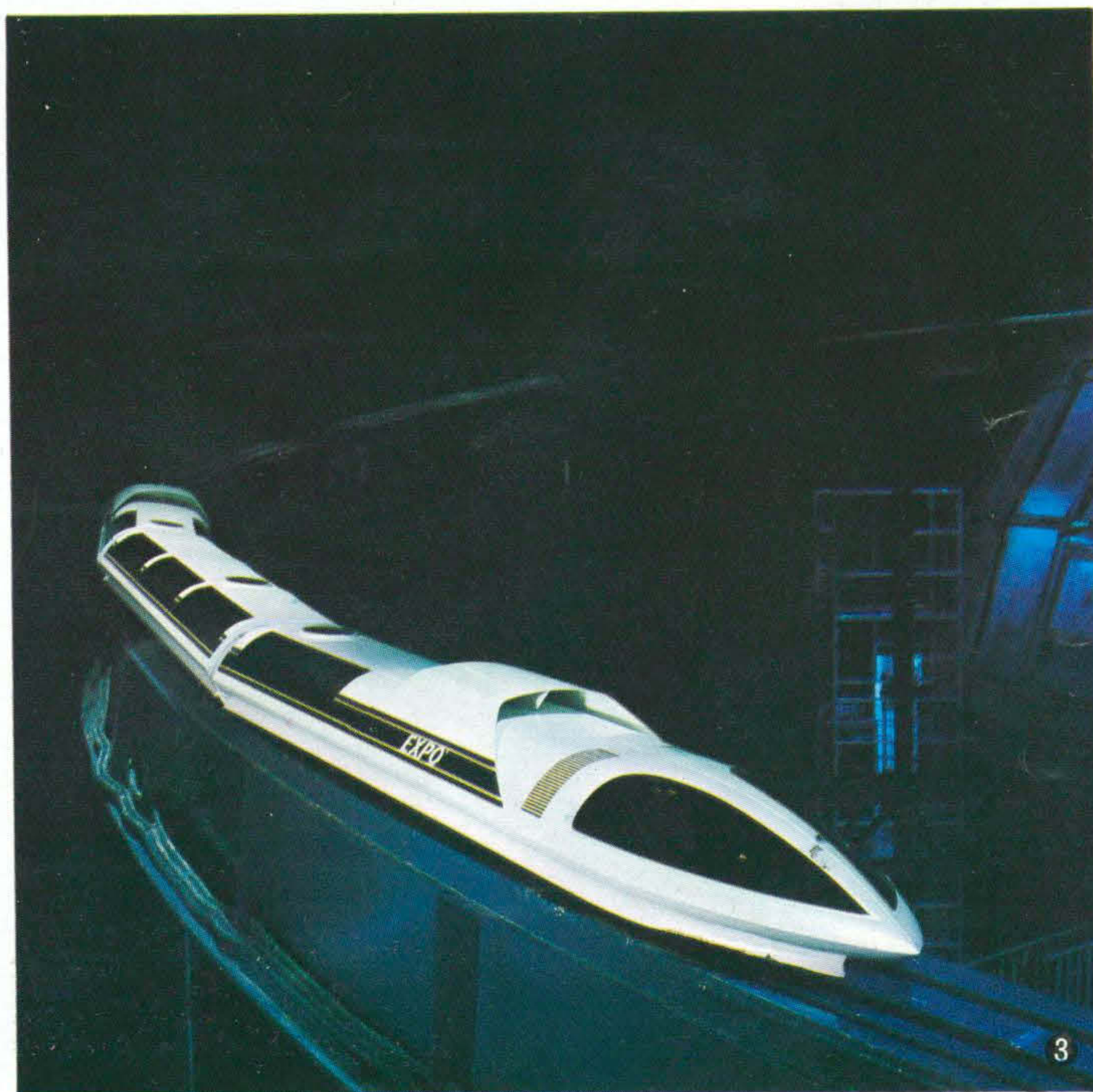
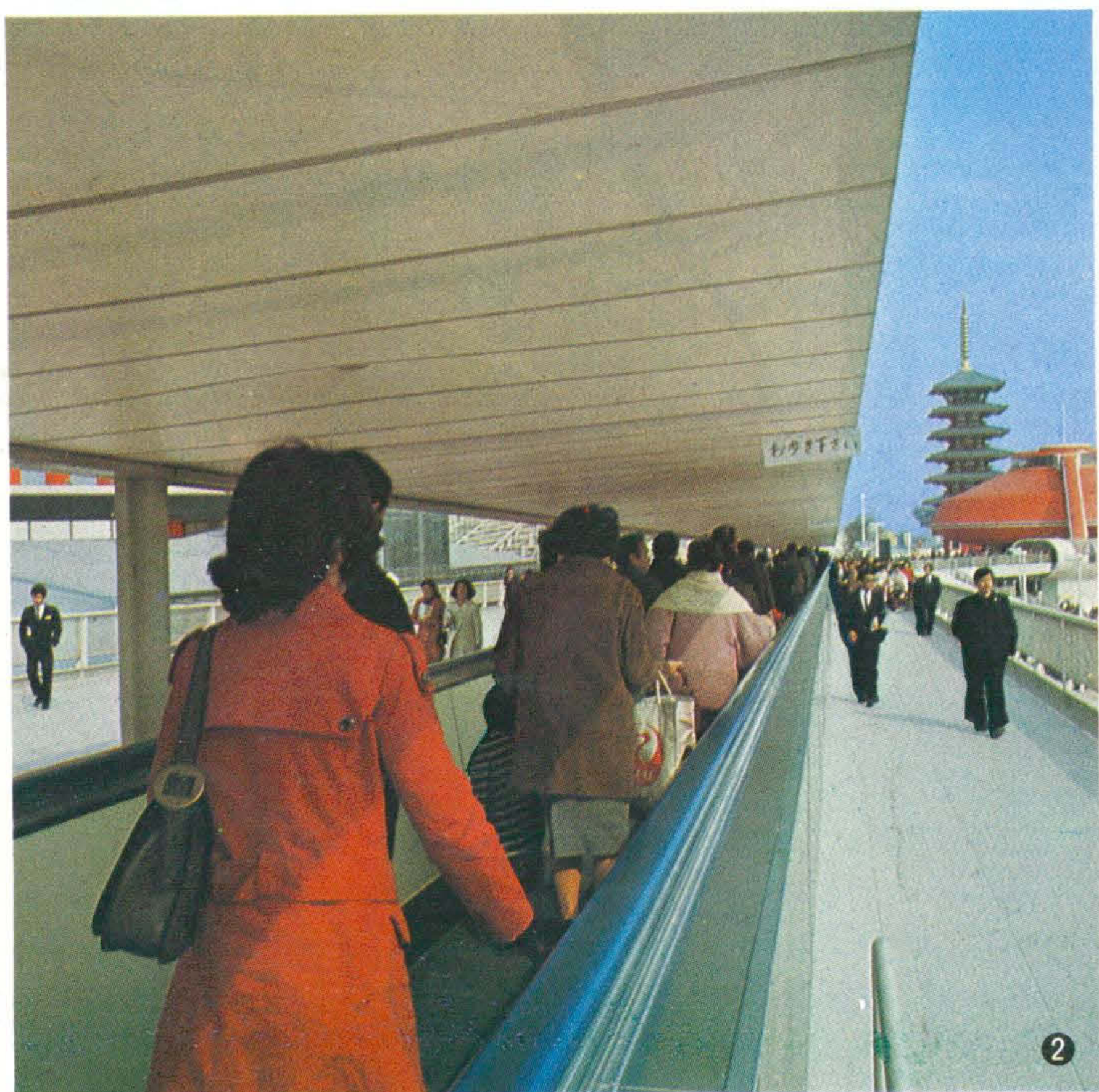
一日平均30万人といわれる入場者の流れをスムーズにさばくモノレールとオートライン(動く歩道)。モノレールは都市交通用に開発されたもので、その開発にあたっては日立をはじめモノレール・グループ技術陣が力をそそいだ。跨座式、ATO(自動運転方式)採用の単線循環。会場周囲4.3キロを平均15分で走り、1時間に

定員1万3,000人を運ぶ。完全な無人運転も可能である。

各ゲートを縦横に結ぶ動く歩道は総延長3.5キロ、輸送能力は1時間に1万人。また、日本政府館4号館には将来の超高速列車(時速400~500km)磁気浮上式リニア・モーターカーの模型が展示されている。

1. 大量輸送に最適。安全な万国博会場のモノレール
2. 日立オートラインで広い会場も効率よく回ることができる
3. 磁気浮上式リニア・モーターカーの模型

1. EXPO monorail for safe mass transportation
2. Autolines carry 10,000 people per hour
3. Model super high-speed train utilizing linear motors





音と映像を体験——みどり館のアストロラマ

'ASTRORAMA' AT MIDORI-KAN

みどり館(三和グループ)のアストロラマは直径30メートルの巨大なドーム・スクリーンに写しだされる“多次元の世界”。11チャンネルのステレオ、515個のスピーカーによる超立体音響のシステム設計は日立の音響技術陣が担当

1. カラフルなドームが夜空に映える
- 2,3. 全天全周に広がる映像の世界
4. ナイロンテープを貼ったスクリーン
5. アストロラマのコントロール室

1. Night view of Midori-kan
- 2,3. "Astrorama" projection on screen
4. Interior projective space with 190,000 pieces of tape
5. Astrorama control room

